

22 全国曹洞宗青年会

SOUSEI

183
2018.11

未来に伝えたい
精進料理



特集

未来に伝えたい 精進料理

全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)による映画「典座―TENZO―」も完成し、先日には試写会も行われました。ここで改めて、「食」に対して考えてみたいと思います、今回は精進料理特集を企画いたしました。

そこですみず思いついたのが、岩手県正法寺山主・盛田正孝老師が、講演等でよく仰る「人間だけが食べ方を問われている」という言葉です。この言葉が非常に心に残っている私は、盛田老師が考える「食」についてお聞きしたく、日本一の茅葺き屋根の本堂がある正法寺様へお伺いしました。





岩手県正法寺山主 盛田正孝老師に聞く 食と禅の教え

人間だけが食べ方を問われている

私は皆さんと変わらない食生活ですから、典座のような専門的なことは言えません。ただ、昨今の感覚というものに対しては、このままで良いはずはないという思いがあります。外国から食べ物を入力しておきながら、全てを生かしきらないで捨てるような状況に対してです。食べ物を捨てている状況を知りながら、何も思わない心が問題なのであって、ここに「物を粗末にしないで生かしきる」という禅の教えが、もっと浸透していかなければと思います。

我々僧侶の食事や生活が一般の方々とはぼ変わらないようになったこともあり、禅の教えが伝え切れていないと感じています。私たちは両祖さまの教えに従って生活しているという思いがあるけれども、それもきちんとできていない部分もあると思います。一般化した生活の中で、「五観の偈」を伝える時に特別なものではなくて、日常生活の中に当たり前の行いとして伝えていかないと、人々には届かないでしょう。お寺や法事の食事で「五観の偈」を唱えても、それが日常生活に溶け込まなければ意味がないのです。更には、お寺が持つ価値観を普遍化したり、大衆化するなどして伝えること自体が難しい時代であります。例えば食事の風景として、合掌して「いただきます」「ごちそうさまでした」と言う姿は当たり前のごちそう

です。しかし、ある小学校の給食で、合掌して「いただきます」と行うのは宗教教育だからダメだという話が議論となったとの話を聞き、私は危機感を感じました。「いただきます」と言っただけで食事をすることに文句を言う人がいるのが現在の日本です。私がこの問題の当事者だったならば、相手にどう対応するだろうとも考えました。

一つとしては、学校の中に宗教者がいて宗教施設があり、そこで授業が行われて初めて宗教教育というのであって、給食の時に合掌することが即ち宗教教育ではないという答え方があるかと思えます。このように自分が当事者ならばどう答えるべきかを問題にすべきであって、批判するだけではなくて、合掌しなくなって、笛の合図で食事を始めたなどと聞くにつれ、残念至極です。

この学校の校長先生は、「食べることを通して命の尊さを子どもたちに教えています」と伝えたのでしょうか。もしそう言えなかったとしたら、それが問題だと思ふのです。食べるということはどういうことなのか、大人にもわかっていない人が増えていると感じます。

私たちは、他の生き物の命を頂かなければ生きていけないことは、誰もがわかっていることのはずです。だから弱肉強食のよきな食物連鎖が行われているのも事実であるわけです。その上で、人間は強いからどのように食べても勝手なのだということにはならないわけです。つまり、弱い者は強



盛田正孝
1944年生まれ。駒澤大学大学院修士課程修了。特派布教師・大本山總持寺後堂をつとめ、現在、岩手県正法寺山主として、布教教化並びに後進の育成に尽力されている。

い者に食べられるという流れの中に人間がどのように位置づけられるかという問いが欠落していると思います。

考えてみてください、私たち人間は食べるだけ食べていますが、食べられる側には入っていません。他の生き物は大小なり小なり、自分の命を差し出して循環しているようなところがあるけれど、人間にはそれがない。もしも他の動物が言葉が話せたならば、「人間はすごい、食べるだけ食べて」というのではないかと思います。他の動物はお

腹いっぱいになったら食べないじゃないですか。ライオンとかそうですよ。だから他の生き物は食べ方を問われませんよ。命を奪いながらそれを平然と破棄する人間だからこそ、食べ方を問われているというメッセージを出していかなければならないのです。私はここに赴粥飯法の大切さが出てくると思います。

生き方が問われている

様々な方法で「食べることの大切さ」を伝えることは大事だけれども、私たちが典座教訓や赴粥飯法をどう読むかということも大事ですね。つまり私たちの修行こそが問われているわけです。伝えたいという強い思いの前に、自分たちが典座教訓や赴粥飯法に書かれているように作ったり食べたり出来ているかを考えなければ。そういうことは精進料理を作る人が特別に勉強するものではなくて、一人ひとりが学んで伝えること。つまりは私たちの生き方が問われているわけです。食べ方が問われると同時に、僧侶としての生き方が問われているという

ところを自覚して、食べることを伝えていかなければなりません。ただこの精進料理が美味しいからという評判を広げるような姿勢は、僧侶として本末転倒だと思います。

私は修行道場で、大切なお弟子さんをお預かりしているわけです。その中で食べ物を作ることで、人を育てていくことは共通点があるのです。典座教訓の中で、道元禪師と典座和尚との出逢いがあるわけです。この素晴らしい出逢い、つまり出逢いによつて人生が変わる。価値観までも一遍に変わってしまう。これが本来の出逢いというものではないのです。例えば料理にも、材料本来の味を生かし引き出すという言葉があります。人を育てることと全く一緒です。人参も大根も色々な形があるように、一人ひとりをきちんと見ていく。なおざりにしないということ徹底していくと、そこに三徳六味が備わってくるものです。三徳六味の教えというものが、その人の命そのものに見えてくる。その人を生かしきるとい

ことです。材料の本来の味を引き出すとい

うことは、その人の本来の味を引き出すということ。こういう点で本当に食べ物を作ることを人を育てていくことは共通点があるわけですね。

今に生きる

「食べることが修行である」とよく言われますが、そんなに簡単な修行ではありません。食べることが本当に修行になるかどうか、自分のこととして考えないといけない。なぜ「食べることが修行」かというと、それは「今」ここで生きていてることなんです。ね。「今」ここが生きている場所、「今」ここが私が存在する場所と、「今」を意識しなければ、「食べることが修行」という言葉を体現できないと思います。登山禪師がお示しのように、「茶に逢うては茶に喫するしかない」「飯に逢うては飯に喫するしかない」。つまり「一瞬一瞬の「今」しかないわけです。だから食べる時は食べるだけです。食べるに「今」を集中する、これが「食べることが修行である」につながるわけです。

取材／広報委員長 西古孝志

食物連鎖の環から外れた現代人は 食べる行為を厳しく問われている

味来食堂特別講師

神奈川県 常泉寺

折橋大貴師に聞く

精進料理と布教

かつては僧侶たちが食べるものであった精進料理は、今では別の役割を背負わされるようになってきたのではないでしょうか。それは「布教」の一環としての側面です。精進料理を一般の方にお出しし、そこに込められた作り手の思いを通じてお釈迦様の教えを感じていただく。精進料理の活動に熱心に取り組んでおられる青年僧にお話しを伺いました。

—折橋大貴さんは神奈川県箱根町で副住職をしておられ、また地元のフレンチレストランのシェフもされています。全曹青の「味来食堂」でも特別講師として「フレンチ精進料理」を振る舞っておられます。今回は折橋さんに精進料理と布教について、自らの経験をもとに語っていただきたいと思います。

折橋さんは僧堂の修行を終えてから調理師免許を取られたとのことですが、修行中に料理の勉強をしたと考えるような出来事があったのでしょうか。

折橋師／大本山總持寺での修行中、監院老師のお世話をする寮舎で行者をしておりました。寮舎に小さな厨房があり、老師の食事と3、4人いる行者の食事を作る機会がありました。1年近く続いた配役の中で、せっかくだから自分の中にしっかり組み込みたいと思ひ、意識的に勉強するようになりました。それがきっかけでしょうか。修行を終えてからも、資格を取れば精進料理の活動をする上でハードルが一つ下がると思ひ、調理師学校に通うことにしました。

—折橋さんが副住職を務める常泉寺では、月に一度「朝粥の会」という催しをされています。

ます。どういった催しなのでしょう。

折橋師／もともとは師匠が始めた行事として「朝粥の会」自体は20年以上の歴史があります。それを私が引き継いでから2、3年といたところでしょうか。毎月1日に行っていて、朝7時から祈祷と住職の法話、了つて8時より粥とお膳を振る舞っています。始めたばかりの頃は祈祷太鼓と法話が主で、朝粥はあくまでサービスのようなものだったのです。私が引き継ぐ前までは、母が料理を作っていました。

—折橋さんが引き継ぐ前と後では、朝粥の会のメニューは変わったのでしょうか。

折橋師／もともと創作料理の傾向が強かったのですが、私になってからわりと現代的になっていきますね。当時は基本的に檀家さん向けの行事だったので、和食のメニューが多くなっています。参加者も60、70代の人たちでしたから。私が引き継いでから若い人が増えました。ですからメニューにトマトソースの Pasta を加えたり、スイーツを作ったりと工夫しています。

—「朝粥の会」で精進料理を振る舞うにあたって、何か気をつけていることはありますか。

折橋師／精進料理についての、いわゆる五葷（ネギ・ニンニク・ニラ・ラッキョウ・タマネギ）と肉食の説明をきちんとするようにしています。精進料理を考える上でこのことは見過ごせないにも関わらず、なぜかきちんと一般の方に説明していないことが多い

い気がするのです。僧堂での料理はともかく、現実の僧侶たちは五葷の入った料理を食べますし、法事の後席に呼んでいただいた際にはお肉を食べたりしています。そんな時に「お坊さんは五葷とお肉を食べてはいけない」と聞いたのですが、なぜ食べているのですか」と質問を受けたとして、ちゃんと説明できないか、つい曖昧にしがちではないでしょうか。でも、ここは精進料理の根本に関わることでですから、きちんと説明すべきと考えます。

—精進料理はこれまで、僧堂の中で修行僧が修行のために調理するものと認識されてきました。しかし、現在は僧侶が一般の方向けに精進料理を通して「法」を説く、という一面も広がりを見せています。そこはどのようにお考えになりますか。

折橋師／宗派を超えてお寺のあり方を考える会などに参加しているのですが、各宗派の新しい試みを模索する僧侶は増えているように思います。二極化しているといえは良いのでしょうか。伝統を守るのも重要なことです。けれども、これまでの前例にただ倣うだけではなく自分の色を出すことも大事だと思っております。私の知り合いも様々な布教教化に取り組んでいます。本堂を会場にチェロを弾き語りしたり、僧侶向けのマネジメント指南をしたり。自分の得意分野やバックボーンを強みにして、まずお寺に人の流れができるように活動する人が増えてきている印象です。

—そのような取り組みが増えているのは、これまでの先祖供養を中心とした僧侶と



精進料理が 人々との縁を結ぶ

人々の繋がりが薄れてきていることが背景にあるのでしょうか。

折橋師／ないがしろにされているわけではないと思います。信仰心が薄れているとも思わないですね。ただ、その信仰心を和尚さんに向けているかといわれると「どうか？」と感じています。

「味来食堂」や精進料理体験に講師として呼ばれた時、よく参加者の方から「なぜこういうことをしているのですか」と尋ねられます。それに対して、「自分はお坊さんです」とではなく、「私はこういうお坊さんなんだよ」と自己紹介したいからですと答えています。〇〇宗のお坊さんと答えるのではなく、こういったことを主にやっているお坊さんです、と答えた方がとつきやすいじゃないですか。古いや人生相談などもお互いの信頼あつてのものですよ。我々僧侶もそこから作っていくかなくてはいけない。そうやって縁を結ぶ方法として、私には精進料理があるという感覚でしょうか。

—折橋さんは精進料理にフレンチを取り入れておられます。それを試してみようと思っただきつけは何なのでしょう。

折橋師／動物性の食材を使わない。そういう決まりごと以外、精進料理は自由なものです。和食だの洋食だのといったジャンルに捉われませんか、改良して良いはずですよ。でも精進料理には胡麻豆腐とかひじきの煮物が必ず付き物という先入観がある。じゃあ変えてみようというので実験的に始めたのがきっかけでした。

—私のような素人は、ジャンルの違うメニューが精進料理として出されると、「精進料理の核がなくなった」という印象を覚えてしまうのですが。

折橋師／そういうことはありません。そもそも精進料理自体、日本生まれではなく元は中国から渡ってきた「外食」です。

当時の日本にとって最先端の調理法が寺に伝わった、だからこそ寺院に貴族・民衆の垣根なく参拝するようになったのではないのでしょうか。その「最先端料理」は長い歴史の中で土地の食材や日本に元々ある風習や調理法と混ざって今のスタイルになった。もちろんその時代の料理と今の料理では明らかに違うはずですよ。漆塗りの器に盛っていたら精進料理なのか、胡麻豆腐がついてたら精進料理なのか。伝統的な精進料理を否定する気はないのですが、料理は基本的に美味しくいただくものです。前例に従うだけではなくこういう精進料理もあるんだよということ、ある程度の遊び心もありつつ、食べていただいた方が楽しいと思うようにしたいですね。

—精進料理を出すにあたって、何か伝えたいと思っていることはありますか。

折橋師／食材を余さず使う、ということ必ず話しています。例えばとうもろこしを調理する時は、ヒゲや芯まで使い切る、ということですよ。ただ難しい専門用語は使わない、むしろそれを使っ出した料理のメニューについて談笑して楽しみながら教える感じですよ。あと、元々変化球のメニューを出すものですから、間に小話はよくして

います。「本日はカレーを出しましたが、お釈迦様の生まれはインドなので、須弥壇に同じものを差し上げました、今頃あちらで笑っているかもしれません」とか。冗談まじりでやっています。

—現在、折橋さんは「味来食堂」で講師を務められています。「味来食堂」での講師経験で、特に興味深かったことはありますか。

折橋師／最近の「味来食堂」の流れとして、地方開催が多くなってきたことが挙げられると思います。その中で、やはり地方色のようなものを感じます。東京都内だと、健康志向の若い方が多いんですよ。マクロビオティックだとかヨガをやっている人だとか、それらを仕事にしている人もいます。あるいは本職の料理人の方だとか。全体的に自分の体に気を遣うタイプの女性が多いです。これが地方になると1回以上年

齢層が上で、家族に振る舞いたいとか、仏様にたまには変わったのを差し上げたいといった動機の人が多いです。自分のためじゃなく他人や仏様のため、という参加者が多い印象です。そうなるとう然期待される料理も変わってきます。打ち合わせや試食の時にその話しを聞くのが一つの楽しみになっています。

—参加者の方が精進料理に求めているものは何か、感じますでしょうか。

折橋師／和尚さんが教える、という形がすごくプラスになるなと感じます。お釈迦様や仏教にまつわる小話とかを、大勢で料理をワイワイ作りながらすると皆さん耳を傾けてくれます。学校のレクリエーションに少し似ています。仏教のことも料理のこともどちらも同時に教えられる。「味来食堂」は布教に関するエネルギーが溢れていて私にとってすごく有難い場だと思います。

また、精進料理の有難いところは、世界中始どの人が食べることができるといえます。食材のほとんどが野菜と海藻ですから、どんな文化・宗教に対しても普遍的に通用する。外国からの旅行者が年々増えていますが、どんな人でも食べられるという点で、精進料理を学んで外国人に振る舞いたい方もっと出てくるのではないのでしょうか。そういった部分でも求められていると思います。

—最後に、精進料理の魅力を語っていただけますでしょうか。

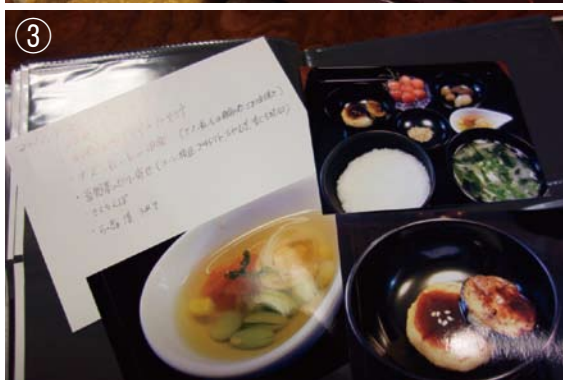
折橋師／先ほど申しましたが、いろんな調理法ができるという点です。インドに行った時は乳粥の作り方を現地で学び、日本に帰ってから日本の食材で作りました。フレッチ、中華、エスニック、そんな自由な発想ができるところが魅力だと思います。

—折橋さんにとって理想の食生活とは？

折橋師／手作りするという事です。一品でもいい、料理を誰かに振る舞うこと。あるいは一緒に作ることで会話の種が生まれます、それが大事だと思います。会話することで時には喧嘩もするかもしれませんが、プラスであれマイナスであれ刺激のない人間関係というのはありえません。会話することで人間は育っていきます。人見知りの人でも自分の作った料理なら話すことができます。そんな風にとらえて欲しいです。

—まさにそれがみんなで料理教室を営む意味だと思います。折橋師は出張料理教室を多く引き受けていらっしやいます。是非これからも全国でご活躍ください。ありがとうございました。

取材／広報委員 田ノ口太悟



①当日出していただいたメニュー／取材に訪れた広報委員のために、今度の「味来食堂」で披露する料理を出していただきました

②色とりどりの坐蒲／坐禅会に参加する子供たちに、好きな色の坐蒲を選んでもらいます

③朝粥の会（お母様）／お母様が「朝粥の会」の料理を作っていた時のメニュー

④朝粥の会（折橋師）／お母様の頃と比べて、現代的なメニューが増えているそうです

取材を終えて



先般テレビを見てみると、そうめんを飛ばしキャッチするゲームが行われていました。そして上手くキャッチできたチームには肉料理が用意されていたのです。ゲーム自体は面白く感じたのですが、何かモヤッとしたものが心に残りました。

それは、私たちは何気なく食事に優劣をつけてしまっているということですね。そうめんは肉より豪華じゃないから、もしキャッチできなくても勿体ないとは思わないのでしょうか。なぜ食事を無駄にするような遊びやゲームが行われるのでしょうか。

食材にはそれぞれ命があります。その命を頂いて、私たちの命が育まれているわけです。「物を粗末にしない、生かしきるといふ禅の教えが浸透していない」と言われた盛田老師の言葉が脳裏をよぎりました。

お話を通して、料理教室を通して、メディアを通して、様々なアプローチで「食べることの大切さ」を伝えていく方が数多くいます。その1人が折橋師です。

折橋師へのインタビューでは、師が精進料理をあくまで自分の個性の一部だと捉えておられるのが印象に残りました。「自分はお坊さんですよと自己紹介したいのではなく、自分はこの紹介したい」とも印象に残る言葉でした。

精進料理それ自体は奥が深く多様なものですし、そこに込められた仏教の教えも大事なことです。しかし、宗教者として最も大事なことは法友や一般の方との交流にあります。お互いの人間的な信頼があつてこそ、精進料理の素晴らしさやお釈迦様の教えの重要さを共有することができるのではないのでしょうか。

折橋師の言葉から強く感じたのは、精進料理の魅力やお釈迦様の教えを、一方的に「教える」のではなくお互いに「共有」しようという姿勢でした。楽しそうに「朝粥の会」や「味来食堂」での参加者の方とのやり取りを話す師の姿を見て、そういう思いを抱きました。

私たちは、手軽に食材が手に入る時代に生きています。この時代であるからこそ、より一層、一つひとつ根気よく伝えていくことこそが、「物を粗末にしない、生かしきるといふ禅の教え」が浸透していく近道なのでしょう。そして、「食」は己の生活の持つに直結するものです。だからこそインタビューさせていただいたお二方のように真摯に考え、これからも参究していきたいと思えます。

ご協力いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。ご多忙の中本当にありがとうございます。

特集担当／広報委員長 西古孝志
広報委員 田ノ口太悟



1



映画 『典座—TENZO—』

撮影報告 連載第3回



とうとう完成!

制作を進めていました、映画『典座—TENZO—』の撮影がとうとう終了しました。当初15分ほどのショートムービーとして動き出した映画制作でありました。しかし撮影を進めながら、我々全曹青が伝えたいもの、映画にご出演いただいた青山俊董老師のお言葉、それらを映画として具現化される富田克也監督のシナリオ・脚本はとて15分で伝えられるものではありませんでした。そんな中、大変有難いことに今回の映画制作の趣旨にご賛同をいただきました皆様から大変多くのご協賛を賜り、我々の想いを具体的かつ、より良い方向に進めさせていただくことが可能な状況になりました。

また、「命の循環」というテーマもその内容をより明確に伝えるため、新たに典座教訓から「他は是吾にあらず更に何れの時をか待たん」の一節を引用することで、物語の展開をより深く構成していくことに至りました。よって、60分以上の大作として完成しました。



60分以上の大作に

最近の撮影としては8月に曹洞宗福島県青年会、曹洞宗復興支援室分室の全面的なご協力をいただき、5日間の長期にわたる福島ロケで、地元寺院様や新地町の仮設住宅などで撮影をさせていただきました。9月の大本山總持寺ロケでは修行僧の皆様にもご協力をいただき、全曹青の会員約20人も加わり、日常の修行風景撮影や映画の中で流れる読経の音撮りなどをさせていただきました。今回の映画制作は「皆で作る映画」を目標に掲げてまいりました。この目標通り様々な形で、様々な方々からご協力をいただきました。

今後、各種映画祭出品を経て、皆様にもご覧いただけるように準備を進めてまいります。これからも映画『典座—TENZO—』公開の情報を発信していきますので、ご期待下さい。

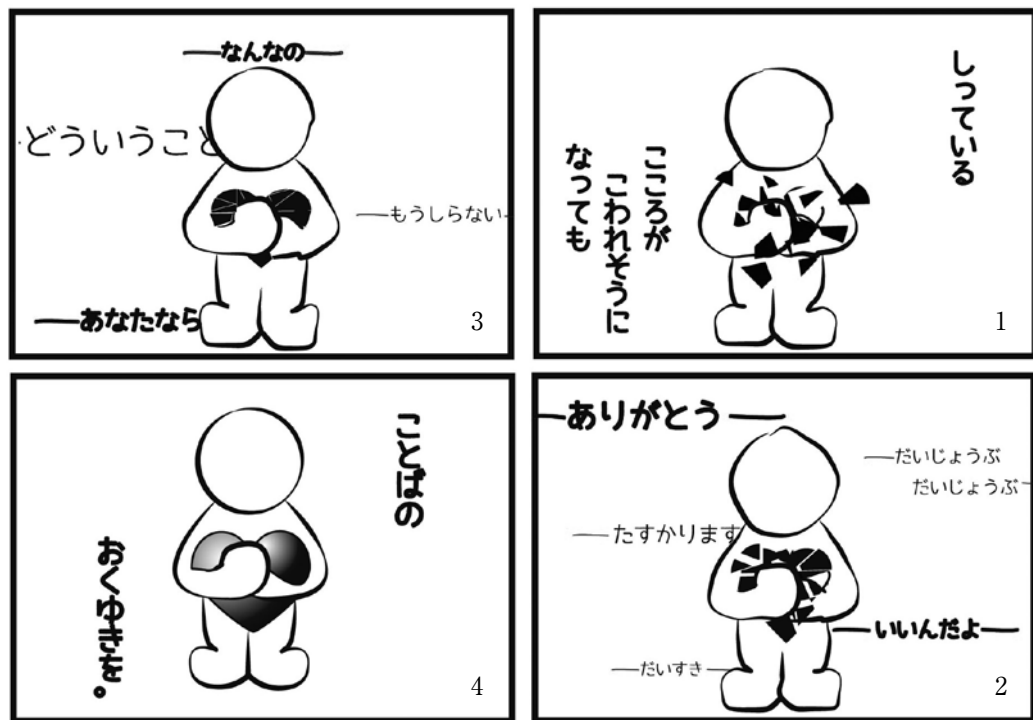
文/教化委員長 近藤真弘

[新連載]

心理学で読み解く

お経の話

日頃親しんでいるお経に記された言葉、その言葉の意味するところを心理学的視点から読み解いていただきました。
第一回はご法事で親しまれている「修証義」より、他者を思い遣る言葉「愛語」について考えていきます。



「言葉の先にあるもの」

修証義 第四章 第二十二節

愛語というは、衆生を見るに、

先ず慈愛の心を発し、

顧愛の言語を施すなり

櫻井的解釈

人に声をかける時に、「どんな言葉」をかけるのかはとても大切です。その一方で、「どんな気持ち」で声をかけるのかは実はもっと大切なかもしれません。

学校のプール。「プールサイドでは走らないように」と声をかけられることがあります。実は人というのは「走らないように」と言われると走りたくなります。「このケーキ、絶対に食べないでね」と言われると食べたくなりますか？それはなぜなのでしょう。

「この友だちはいじわるだ」と思っているのか、「この友だちは優しい」と思っているのか。誰かにいたずらをされた時に「いつもいたづらばかりする」と思いながら「もうしないで！」

私たちが言葉から受け取るのは言葉から連想する「イメージ」です。「走らないように」という言葉からは「走っているイメージ」が浮かんできます。そして私たちは「イメージ」したものは実現しようとします。だから「走らないで」と言われるほど、私たちは走りたくなってしまふのです。

では何と言えばよいのでしょうか？例えば「プールサイドはゆっくり歩きましょう」と言ってみます。すると頭の中では「歩いているイメージ」が浮かびます。すると自然と歩いている。これが言葉の力です。

実はここにはもう一つ大切なことが秘められています。言葉を発する人が、相手を「走る人だ」と思っているか、「歩く人だ」と思っているか。つまり、相手をどんな人だと思つて接しているのか？ということが、大きく影響します。



櫻井 将 プロフィール

エール㈱代表取締役。心理学・脳神経科学等をベースとした、人が幸せに働くコミュニケーションを大企業に届けている。その傍ら慶應義塾大学大学院にて研究者としてコミュニケーションの研究を行う。また保育士の資格も保有。



「愛語 de ハッピーリレー」



大川千秋 プロフィール

INTEREYE CONSULTINGの代表。組織開発コンサルタント。個々が持つ価値や強みの「かけ算」を大切に、ポジティブ心理学や脳科学をベースに個や組織のよりよい「生き方」や「幸せな「あり方」」を開発・実践している。

とすることもできます。一方で「本当は優しいのに今日はどうしたのだろう？」と思いつつ「いつもみたいに優しくしてくれられたら嬉しいな」という言葉をかけるのか。もちろん時に厳しい言葉で伝える必要もあります。そんな時でも、相手をどんな人だと思っただけで相手の反応は変わります。相手はあなたがみなしたようになっていきます。そして、あなたの言葉だけで、相手の人生は変わっていきます。

大川の解釈

ベイ・イット・フォワード (Pay it forward) という言葉を聞いたことがありますか？これは「ある人から受け取った親切を、自分がまた周囲の人への新たな親切でつないでいく」ことを意味する素敵な言葉です。

近年の心理学の研究では、「他者に向けた親切行動や感謝によって、自分自身のポジティブな感情が増強される」という報告や、「与える喜び」を實際に経験することによって、幸福感や心身の健康（ウェルビーイング）が促進されることも明らかになっています。

また、自分自身が幸せで穏やかな気持ちでいられることが続く、自然と自分に自信が持てるようになる、とも言われています。そして自分に自信が持てるようになると、お友達と喧嘩をしたり嫌なことがあっても、不思議と相手を責めることなく素直に謝れるなど落ち着いて物事に対処することもできるようになります。良いことばかりの連続ですね。さらには、あなたのふとした親切行動や思いやりが、知らないうちにずっとずっと遠くの人にまで幸せを運ぶリレーが世界中に続いていくとしたら・・・？

想像してみるとワクワクしませんか。さあそれでは早速、今からこの瞬間から「愛語 de ハッピーリレー」を皆で始めてみましょう！

こども自然ふれあい広場in愛媛

主催・四国地区曹洞宗青年会



平成30年7月24日から27日の4日間、愛媛県伊予市ウエルピア伊予をメイン会場に、福島から子どもたち11人、そして四国の禅キャンプの子どもたち31人が、JALさん指導の紙飛行機教室や周辺の海水浴場に行くなど、合同で楽しい時間を過ごしました。短い期間ではありましたが、子どもたちはそれぞれ協力して班での行動を行い、大きな成長が見えました。

本年度は、開催前に豪雨災害に見舞われましたが、楽しみにしている子どもたちの為に、スタッフの協力のもと無事に開催することができました。

また、南相馬市から寄せ書きやお見舞いの手紙などをいただき、手紙に書かれた言葉を、傾聴活動などで被災された方々にお伝えしました。これからも福島の子どもたちができることを会で考えながら、活動を続けていきたいと思っています。

文／庶務 本土悠悟

こども自然ふれあい広場in秋田

主催・秋田県曹洞宗青年会



平成30年8月1日から3日、秋田県鹿角市を会場に「こども自然ふれあい広場 秋田犬こもれび教室」が開催されました。初めて親元を離れる子どもたちは少し不安そうな面持ちでしたが、一昨年の秋田開催に参加してくれた子どもたちは、「またあの和尚さんいるかな？」とわくわくした様子で秋田へ向かいました。初めてお寺に泊まる子どもたちは仏具やお経、お坊さんに興味いっぱい青年僧との交流を行いました。

自然体験ではロープを伝つての川渡りや秋田犬とのふれあい、川遊び、きりたんぼやピザ作りなどを行いました。キャンプファイヤーでは青年僧の歌に合わせて皆でダンスをしました。その際に踊る青年僧と一緒に、子どもたち全員が自ら踊りに出きたのは驚きと感動でした。この度4度目の秋田県開催をしてくださった、秋田県曹洞宗青年会の皆様に感謝申し上げます。帰りのバスでは「また秋田に行きたい」と子どもたちは話してくれました。

文／庶務 原田恵一



味来食堂 in 新潟

出汁の再利用に 食材への感謝を表す

9月28日に精進料理教室「味来食堂」禅寺の食と心」が、新潟県長岡市のJ A 越後なおか「なじら」で東店の市民交流施設「e.n.e」で行われました。新潟県曹洞宗長生青年会（以下、長生青年会）が主催、全曹青が共催し、長生青年会の青年僧が講師を務めました。参加者は14人で、昨年に引き続き参加された方もいらっしゃいました。

まず、全曹青教化委員長で長生青年会会長も務める近藤真弘師が挨拶し、次に精進料理の心についての法話が行われました。その後、参加者は講師の指導のもと調理を開始しました。今回の献立は、佃煮昆布など5種類です。参加者は調理をしながら講師の説明に熱心にメモをとっておられました。調理が終わるときれいに盛り付けをし、全員で料理をいただきました。参加者からは「出汁とりに使った昆布を料理に再利用するのは、食材への感謝の気持ちが出ていいよ」といった感想をいただきました。

文／広報委員 武田信光

味来食堂 in 石川

地元特産 加賀蓮根を使用

10月8日に曹洞宗石川県青年会主催、第54回禅のつどい「味来食堂」僧食を学ぼう」が金沢勤労者プラザで行われました。

まず、曹洞宗石川県青年会会長高島弘成師の挨拶の後、坐禅が行われました。終わって、今回講師を務めた折橋大貴師、全曹青教化委員の長尾靖樹師の挨拶、そして調理へと進みました。

献立は、加賀蓮根の蓮根蒸し等5品が作られ、参加者の皆さんは終始和やかな雰囲気の中にも真剣な表情で、講師の方々の説明に耳を傾け調理をされていました。

盛り付けをした後、五観の偈を唱えていただきました。食事をいただいている間に講師の2人に質問する時間が設けられ、精進出汁のこと、加賀野菜を使用した感想など様々な質問が出ました。参加者からは、「とてもよかったです！次回もあればぜひ参加したい」などの感想をいただきました。

文／広報委員 大菅哲哉





本年は自然災害が多い夏となりました。各自然災害で被害に遭われました皆様様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。被災からの1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

平成30年7月豪雨 被災地支援

6月28日から7月8日にかけての台風7号および梅雨前線等の影響により、西日本を中心に北海道や中部地方など全国各地で豪雨となり、甚大な被害となりました。曹洞宗寺院にも数多くの被害をもたらしました。

四国地方・中国地方 曹洞宗青年会 支援活動レポート

7月6日に発災した豪雨では四国管内でも多くの被害が出ました。四国地区曹洞宗青年会もボランティア活動を行い、9月末時点で活動した日が34日、延べ201人が参加しました。主な活動としては、支援物資の運搬、被災地の復旧復興（家財の運び出し・土砂撤去等）、子どもたちへの保養バスツアー、避難所・仮設住宅集会所での傾聴活動（ほっとcafe）などを行ってきました。

現在は毎週金曜日、仮設住宅集会所での傾聴活動を主に行っています。活動の中で大きく感じたことは、他の団体（行政・社協・NPO・NGO・志がある方）などと一緒に活動していくことが大事



で、それによって私たち青年会単独では達成できなかった活動も行えることができました。これからも多くの方々と共に協力し、情報共有しながらボランティア活動を行っていきたいと思います。

中国地方でも多くの被害がありました。中国地方の各曹洞宗青年会も各々被災地区に入り、ボランティアセンターを通して支援物資の運搬、被災ごみの運び出し、土砂撤去などの活動と被災者の心のケアのための傾聴活動を行いました。全国各地の曹洞宗青年会からの人的支援にも助けられながら、

復興への道のりを今もなおたどっております。

平成30年9月6日 北海道胆振東部地震 支援活動レポート

9月6日午前3時7分に、北海道胆振地方中東部を震源として最大震度7の地震が発生しました。その威力は凄まじく、被害は大規模で、震源地に近い厚真町では広い範囲で土砂崩れや崖崩れが発生し、多数の家屋が倒壊しました。また、全道の市町村にわたり大規模停電となるなど、被害は拡大しました。

17日には、全曹青から倉島隆行会長並びに災害復興支援部から武藤事務局長、三吉事務局長が、北海道管区理事野村宣英師、北海道第二宗務所青年会会長横山信光師の同行のもと被災地に入り、被災寺院のお見舞いと被災状況の視察をしました。災害復興支援部としては、今後も現地青年会と密な連携を図り、情報発信等の協力をしていきます。被災地では早期復興に向けて日夜励まれています。被災された皆様には、くれぐれも体調管理には気をつけてお過ごしください。

文／広報委員 井口昭典

加盟団体 活動レポート

涼やかな潮風薫る日本最北端、稚内市で平成30年8月29日、会員と関係者あわせて130人の参加のもと全道大会が開催されました。大会会長を務めた曹洞宗北海道青年会会長の佐々木隆宣師をはじめ実行委員会は、今大会を遂行するにあたり先ず、「今我々に求められている、生きた宗教」について考える場とすることを軸に据え、大会テーマを「いのちのそばにいますか?」と定めて準備を進められました。記念講演はテーマの通り、岐阜県の臨済宗妙心寺派大禅寺住職・いのちに向き合う宗教者の会代表の根本紹徹老師を講師に迎え「いのちのそばにいますか?」いま私たち僧侶にできること」と題したご講演をいただきました。

2004年から自死念慮がある若者への相談活動を開始して以来、本人や自死遺族の苦悩と寄り添い続けてこられたご経験から、「人を救うことはできなくとも、一緒に過ごすことはできる」、そして遺族にかけられる慰めの言葉と、自死を思いとどまらせる言葉遣いをはっきりと区別する重要さを特に強く語られていました。

南の函館市から距離を測れば630キロメートルも離れた最北端での開催となりま



第29回 曹洞宗北海道青年会全道大会 稚内大会

したが、大会ホームページを作成して大会趣旨を周知するなどの細やかな準備が実を結び、大勢の僧侶がともに学び、思索を深めた充実の大会となりました。

文／広報副委員長 織田秀道

全日仏青 News



JYBA
ALL JAPAN
YOUNG BUDDHIST
ASSOCIATION

第20回WFBY世界仏教徒青年会議日本大会の開催を記念して『心身すっきり！人生が変わる！プチ修行ができる お寺めぐり』が全日本仏教青年会（以下、全日仏青）監修のもと発売されました。

この本は、全日仏青加盟9つの宗派全国仏教青年会（天台宗、金峯山修験本宗、和宗、真言宗、浄土宗、融通念佛宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗）と4つの地域仏教青年会（埼玉県、神奈川県、大阪府、神戸市）の中から各宗派本山を含めた北は北海道、南は九州沖縄までの50ヶ寺を厳選した旅のガイドブックです。

様々な悩みやストレスを抱える現代社会において、坐禅、寺ヨガ、写経、精進料理などお寺に癒しを求めるかつてない「お寺ブーム」を迎える中、主にプチ修行ができ

るお寺をコンセプトにそのお寺の歴史や境内のご紹介はもちろんのこと、修行体験の予約方法、当日の流れ、所要時間、料金、日時などを紹介しています。とかく硬い雰囲気になりがちな内容を、スタイリッシュなデザインで親しみやすく温かみ深く仕上がっており、広く皆様に手に取っていただければとの思いで制作してまいりました。

曹洞宗からは、永平寺、總持寺の両大本山を含めて全国10ヶ寺を掲載しております。今期全日仏青は、「慈悲の行動」日本仏教の今を世界へ」をスローガンに活動しております。まずは宗派を超えて日本仏教に目を向けていただく道具として、寺族様、お子様たちとの旅のお供に、または日頃よりお世話になっているお檀家様方への贈り物として、お買い求めいただければ幸いです。

文／全日仏青特別委員会

全日仏青 理事 金森成裕

全日本仏教青年会 監修による書籍

心身すっきり！
人生が変わる！
プチ修行ができる
お寺めぐり
出版

プチ修行できる
お寺めぐり

坐禅、寺ヨガ、写経、精進料理、etc.
心を調える修行体験で
週末寺ガールになろう!! SHC

本体 1,500 円＋税
A5判 並製本 160 頁
問い合わせ／
全日仏青特別委員会
金森成裕
yuzawashounji@gmail.com



全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

映画『典座—TENZO—』協賛金感謝録

特別協賛

- 124 報恩寺 様
(神奈川県2)
204 岳雲院 様
(山梨県)
5 臨南寺 様
(大阪府)

◆東京都

- 54 萬福寺 様
149 松月院 様
380 萬福寺 様
月窓寺 様
村尾泰隆 様
村尾隆康 様

◆埼玉県 1

- 187 清法寺 様

◆埼玉県 2

- 238 松林寺 様

◆群馬県

- 194 善宗寺 様

◆茨城県

- 160 定林寺 様
182 龍心寺 様

◆千葉県

- 48 観音寺 様
159 寶聚院 様

◆山梨県

- 213 方外院 様
281 長生寺 様

- 392 慈照寺 様
曹洞宗山梨県青年会 様

◆静岡県 1

- 474 養源院 様
505 清源寺 様
528 盤石寺 様
573 福昌院 様
曹洞宗静岡県
第一宗務所青年会 様

◆静岡県 2

- 332 龍雲寺 様

◆愛知県 1

- 90 西光寺 様
127 龍潭寺 様
668 常楽寺 様

◆愛知県 3

- 379 泉柳寺 様
428 寶珠院 様

◆岐阜県

- 190 長久寺 様

◆三重県 1

- 山本浩子 様
山本きょう子 様

◆三重県 2

- 435 長全寺 様

◆京都府

- 236 善光寺 様
275 公国寺 様
386 徳運寺 様

◆奈良県

- 奈良県曹洞宗青年会 様

◆兵庫県 1

- 313 常観寺 様

◆兵庫県 2

- 147 長楽寺 様
279 大聖寺 様

◆岡山県

- 131 済渡寺 様

◆広島県

- 112 法雲寺 様

◆山口県

- 47 徳龍寺 様
54 昌福寺 様
128 周善寺 様
190 亨徳寺 様
山口県曹洞宗青年会 様

◆島根県 2

- 18 萬松院 様
60 桐岳寺 様
94 洞泉寺 様
99 禪慶院 様
140 法藏寺 様
いずも曹洞宗青年会 様

◆愛媛県

- 113 西禅寺 様

◆四国

- 四国地区曹洞宗青年会 様

◆福岡県

- 121 大興善寺 様

◆大分県

- 81 善幸寺 様

◆長崎県 3

- 101 南明寺 様

◆佐賀県

- 161 長得寺 様

◆熊本県 2

- 78 地藏院 様
88 明徳寺 様

◆宮崎県

- 10 普門寺 様

◆鹿児島県

- 14 絃昭寺 様

◆長野県 1

- 71 苔翁寺 様
99 天照寺 様
119 龍洞院 様
123 真藏寺 様
147 徳應院 様

◆福井県

- 145 瑞林寺 様

◆新潟県 1

- 342 光照寺 様

◆新潟県 4

- 曹洞宗新潟県
第四宗務所青壮年会 様

◆福島県

- 125 勝音寺 様
276 龍雲寺 様
436 長福寺 様

◆宮城県

- 43 玉川寺 様

- 113 繁昌院 様
324 光嚴寺 様
475 城皇寺 様

◆青森県

- 84 涼雲院 様
189 乗照寺 様

◆山形県 1

- 44 安國寺 様
101 長泉寺 様
194 龍護寺 様

◆秋田県

- 17 補陀寺 様
18 乗福寺 様
49 乗江院 様
80 泉秀寺 様
94 慈音寺 様
118 禅林寺 様
265 倫勝寺 様
297 福嚴寺 様
317 本宮寺 様
338 圓通寺 様
350 観音寺 様

◆北海道 1

- 札幌禅林青年会 様

◆北海道 2

- 102 興禅寺 様
115 大玄寺 様
186 金剛寺 様
241 孝徳寺 様

◆北海道 3

- 136 龍淵寺 様
146 晃徳寺 様
460 道貫寺 様

インターネット 受付分

特別協賛

- 37 四天王寺 様
(三重県 1)

- 佐賀県第十三教区 様
(佐賀県)

◆東京都

- 坂 句子 様

◆神奈川県

- 藤江佐和子 様

◆静岡県 2

- 伊豆曹洞宗青年会 様

◆静岡県 3

- 962 正医寺 様

◆福岡県

- 田中美智子 様

◆佐賀県

- 130 廣雲寺 様

◆宮城県

- 314 満福寺 様

◆北海道 2

- 181 永祥寺 様

おかげさまで90年!

永平寺門前

井の上

〒910-1228 福井県吉田郡永平寺町志比28-2
☎(0776)63-3333 Fax(0776)63-3332

表紙の話

「曼珠沙華(彼岸花)の花言葉は、『思うはあなた一人』『また会う日を楽しみに』です。まさに、今は亡き人を偲ぶ花。仏花というにふさわしい花です。そして今回の特集は『食』です。アゲハチョウが花びらにとまっている様子も、何だか食事しているように見えます」

撮影者/PG 原依里

賛助費浄納御芳名簿

平成30年7月1日～平成30年9月30日取扱い分

◆東京都

54 萬福寺 様
70 永昌寺 様
105 鳳林寺 様
149 松月院 様

◆神奈川県 1

350 宗久寺 様

◆神奈川県 2

124 報恩寺 様
150 定方寺 様

◆埼玉県 1

436 陽雲寺 様

◆埼玉県 2

207 蓮光寺 様

◆埼玉県

三浦宏一郎 様

◆群馬県

56 玉泉院 様
194 善宗寺 様
217 正泉寺 様

◆栃木県

125 長興寺 様
161 東陽院 様
166 正慶寺 様
175 本光寺 様

◆茨城県

13 龍泉院 様
145 性山寺 様
160 定林寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

7 満蔵寺 様
22 廣壽寺 様
29 慶林寺 様
159 寶聚院 様
185 勢國寺 様
198 太高寺 様
357 永福寺 様

◆山梨県

281 長生寺 様

◆静岡県 1

95 久應院 様
202 先照寺 様
388 林叟院 様
463 栄昌寺 様

◆静岡県 2

229 法華寺 様
332 龍雲寺 様
362 福泉寺 様

◆静岡県 3

584 長興寺 様
676 孤雲寺 様
678 宗心寺 様
1228 栄林寺 様

◆静岡県 4

1017 龍泉寺 様

◆愛知県 1

249 安祥寺 様
313 長松寺 様
341 一心寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様

◆愛知県 2

684 花井寺 様

◆愛知県 3

379 泉柳寺 様
411 福田寺 様
428 寶珠院 様
1106 寶鏡寺 様

◆岐阜県

108 玄霜寺 様
162 清楽寺 様

◆三重県 1

37 四天王寺 様
203 等観寺 様
246 寶泉院 様
269 大蓮寺 様

◆滋賀県

178 洞源寺 様

◆京都府

26 岩屋寺 様
236 善光寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
98 吉祥院 様
117 普明寺 様

◆和歌山県

35 高松寺 様
64 祐川寺 様

◆兵庫県 1

9 三宝院 様
370 明善寺 様

◆兵庫県 2

149 瑞光寺 様

◆岡山県

59 観泉寺 様
131 濟渡寺 様

◆広島県

46 双照院 様
86 西金寺 様
89 積善寺 様
112 法雲寺 様

◆山口県

24 吉祥寺 様
72 真福寺 様

◆鳥取県

133 妙元寺 様
139 養光院 様
163 雲光寺 様

◆島根県 2

54 雲松寺 様
63 龍覚寺 様
66 浄心寺 様
70 完全寺 様

139 十楽寺 様
140 法藏寺 様
195 總光寺 様

◆愛媛県

113 西禪寺 様
146 興雲寺 様

◆福岡県

121 大興善寺 様

◆長崎県 1

78 宝泉寺 様

◆長崎県 3

101 南明寺 様

◆佐賀県

161 長得寺 様
194 普恩寺 様
213 瑞光寺 様

◆熊本県 2

78 地藏院 様
88 明德寺 様
122 國照寺 様

◆宮崎県

6 祐國寺 様

◆鹿児島県

14 紘昭寺 様

◆長野県 1

71 苔翁寺 様
119 龍洞院 様
123 真藏寺 様
147 徳應院 様

◆長野県 2

375 龍雲寺 様
430 長谷寺 様
441 雲龍寺 様

◆福井県

254 圓明寺 様
272 洞善寺 様

◆新潟県 1

342 光照寺 様
363 定明寺 様
390 東禪寺 様
453 龍澤寺 様
477 龍泉院 様

◆新潟県 2

710 晃照寺 様
716 東光寺 様

◆新潟県 4

23 観音寺 様
296 関泉寺 様

◆福島県

43 東禪寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
121 長泉寺 様
167 澄江寺 様
173 長慶寺 様
226 常隆寺 様
276 龍雲寺 様
405 勝方寺 様
461 正法寺 様

◆宮城県

33 玄光庵 様
113 繁昌院 様
212 祥雲寺 様
271 願成寺 様
293 梅溪寺 様
352 安永寺 様
465 松岩寺 様
475 城皇寺 様

◆岩手県

28 聖福寺 様
81 円城寺 様

◆青森県

22 恵林寺 様
100 澄月寺 様
101 聖福寺 様
103 光昌寺 様

◆山形県 1

90 無量寺 様

◆山形県 2

285 泉高院 様
316 金鐘寺 様

◆秋田県

17 補陀寺 様
49 乗江院 様
80 泉秀寺 様
118 禪林寺 様
165 能持院 様
184 護昌寺 様
209 満友寺 様
216 向川寺 様
220 雲巖寺 様
302 天昌寺 様
321 鏡得寺 様

◆北海道 1

13 曹溪寺 様
14 廣福寺 様

◆北海道 2

115 大玄寺 様
241 孝徳寺 様

◆北海道 3

146 晃徳寺 様

インターネット
受付分

◆東京都

大志田樹子 様

◆愛知県

門脇千恵子 様

◆三重県

田中綾子 様

◆島根県 2

187 養善寺 様

◆新潟県

佐野桂子 様

◆岩手県

岩手県曹洞宗青年会 様

ボランティア基金感謝録

東京都 功雲院 様
神奈川県 大室英暁 様
埼玉県 三浦宏一郎 様
静岡県 乾徳寺 様
静岡県 伊豆曹洞宗青年会 様
静岡県 佛源寺 様

愛知県 愛知県第三宗務所青年会 様
岐阜県 曹洞宗岐阜青年会 様
三重県 四天王寺 様
京都府 禪福寺 様
熊本県 熊本県曹洞宗青年会 様
福井県 福井県曹洞宗青年会 様

岩手県 岩手県第七教区ぜんこうかい 様
山形県 東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 様
山形県 山形曹洞宗青年会 様
秋田県 護昌寺 様
秋田県 秋田県第九教区 法友会 様

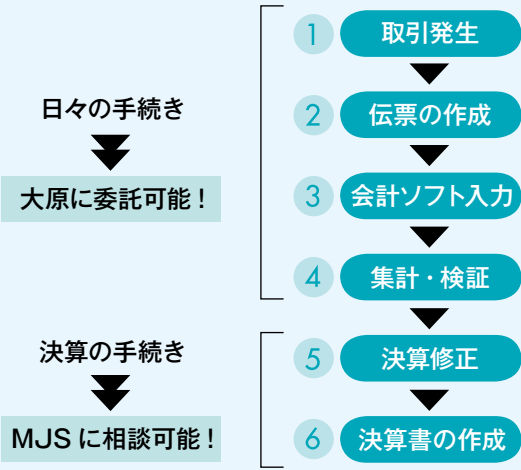
宗団法人会計普及に向けて

第4回 最終回・経営のための会計

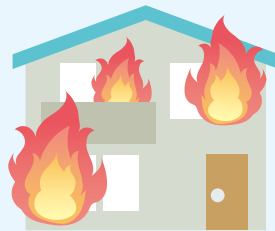
学校法人大原学園理事長／中川和久

3回に渡ってお話をしてみました『会計』のご紹介も最終回となりました。第4回は、これまでご紹介をしてみました様々な会計情報は、どのようにして集めていくのかをお話してまいりたいと存じます。

まず始めに、会計の流れについてご説明いたします。一般的な会計の流れは、次のようになります。



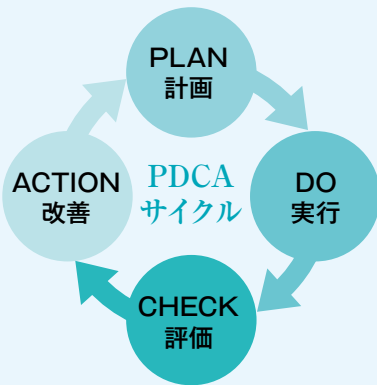
- ① 取引とは、資産・負債・純資産・収益・費用に増減変化をもたらすあらゆる事象を取引といいます。例えば、建物が火災によって焼失した場合、一般的には取引とは言いませんが、建物という資産が火災によって減少するため、簿記上は取引となります。この簿記上の取引が発生したら②に流れます。
- ② 伝票とは、領収書や請求書等々の書類に基づいて、取引内容を簡潔に記載する紙片をいいます。③の会計ソフト入力のもとになる資料となりますので、伝票記入を間違えると、その後の手続きすべてに間違いが生じることになります。
- ③ 会計ソフト入力は、②の伝票にもとづいて、パソコンを使って会計ソフトへ入力します。会計ソフトは、いくつもありますが、ここでは、(株)ミロク情報サービス(MJS)の会計ソフトをご紹介します。MJSの宗団法人対応の会計ソフト「宗団法人決算書」の特長は、宗団法人法第25条で規定す



資格の大原
就職の大原

- る決算書の作成のほか、最大14回の補正予算に対応・4連型および9連型の内訳表を出力・資産の購入や借入返済などの面倒な取引も自動で帳票に反映することができま
- す。
- MJSの宗団法人会計ソフトを利用して、ご自身の入力を希望される方は、末尾記載の(株)ミロク情報サービス 営業推進部までご相談ください。なお、会計ソフトの導入は有料となります(ご相談は無料です)。
- ④ 入力内容が正しいかを検証します。集計作業は、すべて会計ソフトが自動で行います。
- ⑤ 決算整理等を行い、1年間記録をしてきた数値の確認・修正を行います。
- ⑥ 宗団法人の決算書は、ア. 財産目録、イ. 収支計算書、ウ. 貸借対照表、エ. 正味財産増減計算書の4つが決算書の種類として示されています。

以下にPDCAの図があります。PDCAとは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)の頭文字を並べた言葉で、これを繰り返すことで、様々な改善をしていく手法です。



この中の「C(Check)」については、日々の記帳とその確認によって評価を行い、次の改善に繋げていくことができます。1年間の総合評価は決算書で表されます。これを繰り返すことによって、次の計画に活用することが可能となります。

「決算書というのは、過去データであって、将来には役立たない」というご意見もあるかもしれませんが、決算書は過去の事実を数字によって単純に表しており、将来の判断材料として大いに役立つものです。ぜひこの機会に、宗団法人会計でも示されている各種決算書の活用方法を再発見してみたいかがでしょうか。

最後に、日々の記帳と聞くと、「大変……」「面倒……」といった感想をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。そのような方には、「記帳代行」というアウトソーシングの方法もございます。大原学園グループでは、前記「日々の手続き」のご支援のため、五千円/月(税別)で記帳代行が可能です。会計に関するご相談も含め、末尾記載の電話番号へお気軽にご相談ください。

また、前記「決算の手続き」については、MJS運営の無料でお近くの会計事務所(税理士)を探せる「会計事務所検索エンジン」、<https://www.accont.jp/>にて検索することができます。

■各お問い合わせ先

★MJSの宗団法人会計ソフトの御相談

(株)ミロク情報サービス

営業推進部 担当 折本・原田

☎03-56326-0381


★大原学園グループへの

会計・記帳代行相談 担当・里

☎03-35518-6718


委員 金森成裕

山形曹洞宗青年会所属、全曹青2期目となります。金森成裕と申します。今期は全日仏青の理事を仰せつかりました。今期全日仏青は全曹青より理事長を輩出、さらに11月に世界大会を控えております。全曹青、曹洞宗として恥ずかしいことがなきように精一杯務めさせていただきます。




委員 大久保厚志

曹洞宗岐阜県青年会から参加させていただいております。前期に引き続いて全日仏青の理事を拝命いたしました。今までの経験を活かし、理事の任だけでなく全曹青が担当している事務局運営の一助となれるように務めてまいります。




事務局長 内藤宏信

倉島会長が全日仏青理事長を兼任する今期は、特別委員会「全日仏青特別委員会」が中心となってその運営に当たっております。この原稿を書いているのが、世界大会14日前。睡眠時間を削りながら委員会一丸となって大会に向けて準備を進めております。このメンバーなら大丈夫！絶対成功だ！そう思わせてくれる仲間、先輩たちとともに大事業に挑んでまいります。



委員 高津徳仁

三重県曹洞宗青年会から参加させていただいております。高津徳仁と申します。初参加で、全日本仏教青年会事務局長代行を務めさせていただいております。宗派を超えた団体の中で慣れない仕事をこなしていく事は大変ですが、仲間の助けが有り支えられている事、また、最大の理解者である家族の支えが有って成り立っている事に気づけた事が一番良い経験となりました。残りの在籍期間も身近な幸せから世界平和へと繋がるように精進してまいりますと思っております。



委員 村上徹信

曹洞宗福島県青年会から参加しております。今期で4期目となりますが、全日仏青では、事務局長代行として、理事長、事務局長、WFBY会長代行を陰から支え、理事の皆様、事務局の皆様の意見を汲み取りながら、円滑に事業を展開してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。




全日仏青
特別委員会の
ごあいさつ




委員 柴田承寛

全日本仏教青年会事務局次長をさせていただいております。柴田承寛です。全国の曹洞宗僧侶の方々、また宗派の壁を超えた交流をさせていただき、とても光栄に思っております。




委員 高柳龍哉

秋田県曹洞宗青年会より今期から参加しております高柳龍哉と申します。全日本仏教青年会では国際委員会を担当しております。世界大会が10年ぶりに日本で開催される年に全日仏青特別委員として携われる事を嬉しく思うと共に、微力ではありますが「禅を世界へ、そして未来へ」その一助となるよう努めてまいります。




委員 渡辺峰俊

京都曹洞宗青年会より参加させていただいております渡辺峰俊と申します。「仏法興隆 花まつり千僧法要」等を始め、他宗派の方々と共に力を合わせ、普段出来ない経験をする事が出来大変濃い2年間であったと思っております。残りの期間、また、世界大会もありますので精一杯頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。




委員 石井哲臣

埼玉県第2宗務所より参加させていただいております石井哲臣と申します。特別委員会は、宗派を超えた様々な青年僧侶の姿を拝見でき学ぶことが多く嬉しく思います。「慈悲の行動」に結びつくよう今できることをひとつひとつ精進いたします。よろしくお願いいたします。




委員 前島勇哉

曹洞宗静岡県第1宗務所より参加させていただいております。前島勇哉と申します。世界大会が日本開催の年に全日仏青特別委員として携われ、貴重な経験をさせていただけることを大変嬉しく思います。




委員 中川光真

四国地区曹洞宗青年会の中川光真と申します。今期で3期目の参加となります。昨年はタイ国にてブミボン前国王追悼行事、今年は世界大会等、宗派・国を越え様々な経験をさせていただいております。今まで感じ得ることのできなかった仏教の真髄をより深く見詰め、貴重な経験を得て、日々の布教活動に精進してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。




委員 伊藤秀幸

和歌山県曹洞宗青年会より参加させていただいております伊藤秀幸と申します。今期、世界大会を日本が担当ということで携われることを大変光栄に思っております。この世界大会並びに全国大会を無事円成出来るように尽力したいと思います。皆様、何卒よろしくお願いいたします。



委員 小川建弘

京都曹洞宗青年会から事務局次長として参加しています。小川建弘と申します。また「未来の僧侶研修委員会」というお寺の未来を考えるワークショップの委員でもあり、会は様々な他宗派の方と話し合える喜びを噛み締めています。機会があればご参加ください。



連載



第5回

五観の偈

文と絵／愛知県 正壽寺寺族 早坂 宏香

毎月初心者向けの坐禅会を開いています。数年前からは坐禅の後に住職の法話とお粥を体験していただくようになりました。

はじめた頃はシンプルな白粥を用意していましたが、ある時、お正月にたくさんあったお餅を使って餅粥を用意したところ、たいそう喜んでいただいたことから、徐々にレパートリーを増やして、いまでは月替わりの「季節のお粥」を用意しています。

すぐに楽をしたくなってしまいうっかり者の私は、試作の時に「これくらいなら・・・」とついつい手を抜いてしまいます。そうすると不思議なほどに必ず美味しくなく、その度に手抜きを反省するのです。

そういえば家庭でも同じようなことがありました。家族の食事は気を使いますが、自分一人の食事なら・・・残りもので代用

します。平日昼間の「これでまあいっか」は私には頻繁にあることです。

最近、この「まあいっか」はどういう心なのか？とふと疑問に感じた時がありました。よくよく考えれば、誰かに食べていただく食事と自分が食べる食事、新しく作った料理と食べ残った料理、どうやら私はこれらに差をつけていたようです。

丁寧に食事の支度をしてきたつもりでしたが、実際には逆のことをしていたのです。これは、お粥作りに取り組んだからこそたどり着いた気づきのように感じました。

このご縁に感謝をして「五観の偈」をお唱えした時、本当にありがたい言葉だったのだと改めて心に刻んだのでした。

合掌

